

絆広がる百合が原公園

北区市民部地域振興課

【フラワーパーク百合が原公園の魅力】

百合が原公園は、北区唯一の総合公園で、約6,400種類もの花や緑が育てられています。温室施設を備えたこの公園は、四季折々の花を1年中楽しむことができる、札幌市のフラワーパークです。

昭和61年には「'86 さっぽろ花と緑の博覧会」が開催され、約147万人の来場を記録しました。かつてこの地が牧場だった歴史を後世に伝えるために保存されていたサイロは、この博覧会を機に公園を360度見渡すことができる展望台として生まれ変わりました。

そして、百合が原公園の魅力伝える上で忘れてはならないのが、大人にも子どもにも大人気のリリートレインです。公園を12分かけて一周するリリートレインは、旧国鉄の軌道を再利用して作られ、車両の作りも本物の鉄道と同じものであるため、ノスタルジックな気分を味わうことができます。

余談になりますが、ベテラン車掌によるわかりやすい小粋なトークがリリートレインの魅力の一翼を担っていると思っています。皆さんも、百合が原公園を訪れた際には、是非乗ってみてください。



【百合が原公園を区民交流の場に】

前述のようなフラワーパークとしての魅力を誇る百合が原公園を区民交流の場としようとする取組が平成25年から始まりました。

百合が原公園の指定管理者である札幌市公園緑化協会が、これまで単独主催で開催していた「ミモザコンサート」を、平成25年3月に北区との共催で初めて行ったことがきっかけです。

こうして始まった事業が「百合が原音楽祭」です。開催時期は、公園の名前の一部となっている「百合」が見頃の6月とし、芝生の上で行う青空コンサートとしました。

北区では、この「百合が原音楽祭」を、ただの音楽祭ではなく、区民に発表の場を創出することができ、かつ若い世代がまちづくり活動に参加するきっかけとなるイベントとなるよう企画しました。

現在、高齢化や担い手不足により、まちづくり活動の継続が難しくなっている地域があり、問題となっています。

一方で、「まちづくり活動に参加するきっかけがない」、「まちづくり活動に関する情報が無い」と

いったことから、まちづくり活動に参加したいという気持ちがある若者が、まちづくり活動にあまり参加できていないという現状があります。

そこで、中学生に出演いただくことで、当日出演する中学生を見に来る親世代の参加を促し、まちづくり活動にあまり参加が見られない、30代～40代の世代を音楽祭に呼び込むことに成功しました。



さらに、高校、大学の吹奏楽部や北海道警察音楽隊などにも出演をお願いし、年齢層に厚みを持たせました。



また、大学生には楽器運搬等のボランティアをお願いし、音楽祭の当日運営に関わっていることで、若い世代がまちづくり活動に関わるきっかけづくりができたと思います。

【百合が原音楽祭の成功を糧に】

平成25年度の第1回「百合が原音楽祭」は、2日間にわたり開催され、両日合わせて1,000人もの区民に会場にいらしてくださいました。平成26年度の第2回「百合が原音楽祭」は、知名度が上がったからか、開催期間を2日から1日へ縮小したにも関わらず、前年を上回る1,500人の来場がありました。

札幌市公園緑化協会のアンケートでは、「百合が原音楽祭」について、高い評価をいただき、「青空の下楽しく聞けた」、「学生と地域が交流しているのが素晴らしい」、「毎年開催してほしい」などのお声が寄せられました。

また、当日運営のボランティアをした大学生を集めて意見交換会を行い、単なる「お手伝い」としてではなく、まちづくり活動の担い手として、大学生ボランティアの意識を高めることができたと思います。

百合が原音楽祭が大成功を収めたことから、北区と札幌市公園緑化協会との共催で、秋には「百合が原紅葉祭り」、冬には「ミモザコンサート」を百合が原公園において開催し、どちらも大盛況でした。これらの成功を重ねたことにより、百合が原公園での年3回のイベントは毎年のごこととして地域に認識され、百合が原公園に区民交流の場を根付かせることができたと思っています。



百合が原紅葉祭り



ミモザコンサート

今後も、百合が原公園での事業を継続するとともに、市民活動を促進し、区民交流の場を提供することで、幅広い世代がまちづくり活動に携わり、北区のまちづくり活動がより活発となっていくような事業を検討していきます。

○お問い合わせ

北区市民部地域振興課

まちづくり調整担当係

TEL.011-757-2407